

平成20年度病害虫発生予察注意報第7号

平成21年3月25日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

オオムギ網斑病の発生が県中部を中心に多くなっています。今後の気温の上昇とともに本病の発生はさらに増加することが見込まれ、登熟への影響が懸念されます。被害を防ぐために、防除を徹底しましょう。

病害虫名：オオムギ網斑病

- 1 対象作物 オオムギ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 3月23日現在、発生ほ場率は90.0%で、広範囲で発生している。現時点では、下位葉の発生が主体であるが、県中部では発病茎率が100%に達しているほ場も散見されており、今後、上位葉への急激な病勢進展が予想される。
- (2) オオムギの生育については、全体的に茎数がやや多く、過繁茂ほ場も散在しており、本病が発生しやすい状態となっている。
- (3) 3月20日発表の向こう1か月の気象予報によると、気温、降水量ともほぼ平年並と予想されていることから、今後も本病の発生しやすい条件で経過すると予想される。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 葉色が濃く、過繁茂のほ場では多発の恐れがあるので注意する。また、本病の発生が上位葉に拡大すると、登熟に影響し減収・品質低下を引き起こすことから、多発生が予想されるほ場では防除を徹底する。
- (2) 平成20年度麦栽培指導指針などを参考にして、病気が蔓延する前に薬剤防除を行う。防除は、チルト乳剤25(1,000倍)を使用し、薬剤散布にあたっては展着剤を加用する。
- (3) 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。